

令和7年度学校経営計画に対する最終評価 報告書

石川県立七尾城北高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1	①	教務課 全教職員	「ユニバーサルデザイン化の観点を取り入れた個別最適な授業・指導を行い、生徒自身らが伸びていると感じさせることができている・ほぼできている」教職員の割合が、 A 100% である B 90% 以上である C 80% 以上である D 80% 未満である	A	生徒への授業評価アンケート結果からも、「わかりやすい」91%、「スライドなどが参考になる」89%という評価を得た。今後もよりわかりやすい授業を目指して、授業改善を図る。 教員対象の自己評価アンケートでは、「授業の展開ができた」が28.6% 「まあまあできた」71.4%で、全ての教員が実践できている。 各教員が、校内研修等を通じて教材の活用方法について理解を深めるとともに、どの生徒もより理解しやすい授業を目指して今後も取り組んでいく。
	②	教務課 各教科	「主体的に授業に参加し、自ら伸びていると感じることができている・ほぼできている」生徒の割合が A 100% である B 90% 以上である C 80% 以上である D 80% 未満である		C
<p>学校関係者評価委員会の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかりやすい」と回答している生徒の割合が高くなっており、ICT機器の有効活用など先生方の様々な工夫を伺い知ることができる。 ・授業の内容を理解していない生徒の割合が他の質問と比べると若干高い傾向にある。学力に幅のある生徒たちに個々に応じた課題を提供することで成功体験を味わえるようにして、自信をつけさせることが重要である。 					
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内外の研修や教員相互の情報交換を通して効果的な活用法を共有して授業改善に努めていく。 					

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 学校生活全般を通して社会で必要なルールやマナーの定着を図るとともに、集団活動の中での役割を担うことで自己肯定感を高める。	① 各種教室（非行防止教室、防犯教室など）の開催により、生徒の規範意識を高め、ルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。	生徒指導課	「ルールやマナーを守って学校生活を送っている・ほぼ守っている」生徒の割合が A 90% 以上である B 80% 以上である C 70% 以上である D 70% 未満である	A	生徒による学校生活における調査では前後期計68名の生徒が回答し、「ルールやマナーを守って学校生活を送っている」と回答した生徒は64.7%（昨年度57.4%）、「ほぼ守っている」と回答した生徒が35.3%（昨年度41.2%）であった。生徒会活動やLH等において生徒が自ら考える機会を増やし、ルールやマナーを守ることの大切さが身につくよう今後も取り組んでいく。「いじめに関するアンケート調査」を増やし、生徒向けを3回、保護者向けを1回行った。いずれも、いじめに関係する報告はなかった。
	② 学校行事や生徒会活動等への参加により、集団の一員としての自覚を持ち、自己肯定感を高める。	生徒指導課	「学校行事や生徒会活動等に参加し、自分の役割を果たした・ほぼ果たした」生徒の割合が A 90% 以上である B 80% 以上である C 70% 以上である D 70% 未満である	B	生徒による学校生活における調査では前後期計68名の生徒が回答し、「自分の役割を果たした」と回答した生徒は30.9%（昨年度45.6%）、「ほぼ果たした」と回答した生徒は50.0%（昨年36.8%）で、合計が80.9%であった。昨年度は、82.4%で、「果たした・ほぼ果たした」と回答した生徒が、昨年より1.5%減少した。 本年度は、行事に参加した生徒が少なかったため、このような結果となった。来年度は、学校行事や生徒会行事に参加する生徒を増やすための働きかけを生徒会役員と共に行う。 学校祭、青春のこだまや球技大会などの学校行事において、「キャリアパスポート」や「振り返りシート」を記入することで、自らを振り返り自己肯定感を高める取り組みを進める。
	③ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、毎日の生徒情報交換会・個人面談・アンケート等を実施することで、いじめを未然防止する。	生徒指導課 全教職員	「いじめを未然防止する取組をとおして、生徒の現状を理解し、十分成果を上げている」教員の割合が A 100% である B 90% 以上である C 80% 以上である D 80% 未満である	A	教員対象の自己評価アンケートで、いじめを未然防止する取組が「十分成果をあげている」と回答した教員が37.5%、「ほぼ成果を上げている」と回答した教員62.5%であった。クラスメイトや友人との接し方について相談をする生徒はいるが、いじめの報告はない。 今後も毎日の教員間での情報交換会や生徒へのこまめな声かけ、随時実施する生徒面談などを通して、いじめの未然防止や現状把握に努める。 また、LHや人権週間等を活用して、「いじめ」「偏見」「差別」の問題に対して生徒がそれぞれのテーマに向き合い、自らが考える機会を増やす。

学校関係者評価委員会の評価

- ・学校の取組はとてもよいが生徒へのインプットに止まっていないか。自分の意見をしっかり持って、先の目標を作ることが大事だと思う。

学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策

- ・普段の授業や行事等を通して自らの考えを持ち、発表や発言、行動できるように指導していきたい。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）		
3	キャリア教育を推進する中で、社会人として必要な人間力や望ましい勤労観・職業観を育成し、自らに自信をもって進路を実現するための指導の充実を図る。	①	進路講話、進路学習会、企業ガイダンス等の体験をとおして、勤労観・職業観を育成し、進路選択の能力を高める。	進路指導課	「進路講話、進路学習会、企業ガイダンス等の体験をとおして、勤労観・職業観を生徒自ら自信を持って身につけることができた・ほぼ身につけることができた」生徒の割合が A 100% である B 90% 以上である C 80% 以上である D 80% 未満である	A	11月実施の「進路講話」に参加した生徒対象のアンケート結果では、「今後の進路を考える上で参考になった」と回答した生徒が65%、「やや参考になった」と回答した生徒が35%であり、全体として高い評価を得ることができた。また、自由記述では、「失敗を恐れずに自分ができることに様々なことへ挑戦していきたいと思った」「今自分にできることを精一杯頑張りたいと思った」などの意見が見られ、勤労観・職業観を広げる契機となったことがうかがえる。一方で、本校は夜間定時制という特性上、時間的制約から体験的な活動の機会が十分に確保できていないことが課題である。今後は、年度末に外部講師を招聘し、「就職ガイダンス」の実施やポリテクカレッジによる出前講座、株式会社さんぼう主催の進路相談会への参加を通して、生徒が多様な経験を積み、自己理解を深めるとともに、進路選択の幅を広げる取組を継続していきたい。
	②	教育振興会と学校の繋がりを深めるため情報発信に努め、インターンシップ・企業見学等の受入を依頼する。	総務課	「インターンシップ等を受け入れてもらった会員企業が」 A 12社 以上である B 10社 以上である C 8社 以上である D 8社 未満である	D	本校教育振興会の会員企業にインターンシップ等の受け入れを依頼したところ17社の会員企業から受け入れ可能の返事をいただいた。卒業予定者以外の生徒に受け入れ可能の会員企業を提示し、7月に希望調査を実施したところ参加者はいなかった。 本校では、7月時点で57.5%の生徒がアルバイトを行っており、夏休み期間のインターンシップ等に参加しなかった。今後、学校生活の中でも勤労観・職業観を育成していく必要がある。	
学校関係者評価委員会の評価							
<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトやインターンシップをきっかけとして、社会性が身に付いたり新しい発見が得られたりすることが期待される。将来社会人として自立して働けるようなサポートをしてほしい。 							
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策							
<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習や見学会を計画するなど、生徒に本物に触れる機会を提供できる体制を整えたい。また、事前指導を丁寧に行い、生徒の特性を踏まえながらすすめていきたい。 							

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 家庭や地域と連携した健康教育を推進するとともに、安全を意識して行動できるような安全指導の充実を図る。	① 計画的に健康安全指導の充実を図る。 ② 食育をとおして食の知識を身につけるとともに、食生活を改善するよう指導する。	保健 厚生課 各担任	「各種の健康や安全に対する取り組みが生活習慣の改善に役に立つ・ほぼ役に立つ」と思う生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	A	生徒が自らの命・健康を守ることを意識した働きかけ（避難訓練、防犯教室等）を行った。6月に行った生活習慣調査では、「3/4以上の生徒が、献立や食材に興味を持っていない。」「6割強の生徒は2時以降に就寝している。」「正午以降に起床している生徒が4割以上いる。」などの問題点が挙げられた。 7月に管理栄養士による食育教室を開催し、事後アンケートの結果、100%の生徒が「学んだことが今後役に立つ・ほぼ役立つ」と回答した。「バランスの良い食事について学べ、食生活を見直すことができた。」「コンビニでご飯を買うとき、成分表を見ることから始めようと思った。」など生徒の感想があった。健康・安全の意識を高め行動変容を促す指導を引き続き継続していきたい。
学校関係者評価委員会の評価					
<ul style="list-style-type: none"> 食は生活をする上で大変大切なことである。食育教室等を通して生活習慣を重要視されていることは評価できる。 栄養バランスのとれた食事を摂ることの大切さを様々な場面で伝えてほしい。また、病気の予防法についても具体的に教えながら、心身の健康に努めて欲しい。 					
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策					
<ul style="list-style-type: none"> 関連する教科の授業や、食育教室を通じて、引き続き食育の重要性を指導していく。また、セルフケアやカウンセラーを活用し、心のケアについてもさらに指導していく。 					

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
5	ワークライフバランスの視点を意識し、効率的な校務運営を推進することで、メンタルヘルスの保持増進に努める。	① 書類・データ等の整理整頓を行うと共に、重要度と緊急性の観点から優先順位を決める。 ② お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行する。	全教職員 「お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行できた・ほぼできた」教職員の割合が A 100% である B 90% 以上である C 80% 以上である D 80% 未満である	A	教員対象の自己評価アンケートでは、お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行できたかどうかを尋ねた結果、「よくできた」と回答した教員が37.5%（昨年度25%）、「まあまあできた」と回答した教員が62.5%（昨年度75%）であった。 今後さらにICT等を活用して事務的作業の効率化を図り、自らの業務に対して改善の意識を持ちながら職務遂行にあたる。 また、状況に応じて他の教員をサポートしたり、業務内容を分担したりするなどして、業務の平準化を図る。
<p>学校関係者評価委員会の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の超過勤務時間は平均数時間で概ね適正の範囲であるということであったが、今後も働き方改革を推進していただきたい。 					
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務的作業の効率化や時間の管理、業務の平準化を推進するとともに業務内容の整備を図っていきたい。 					